

第6回札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会 会議録

日時：令和5年2月6日（月）10時開会

場所：札幌市本庁舎 12階1号・2号・3号・4号会議室（札幌市中央区北1条西2丁目）

出席：浅香委員、大西委員、岡本委員、梶井副会長、川島委員、木村委員*、定池委員、
佐藤（大）委員、佐藤（理）委員、椎野委員、柴田委員、尚和委員、高野委員、
高橋委員、中田委員、原田委員*、平本会長、福士委員、松田委員、山本（一）
委員、山本（強）委員、吉岡委員

（*…オンライン出席）

事務局：浅村政策企画部長、中本企画課長、田中企画係長、岩間企画担当係長

1. 開 会

○事務局（浅村政策企画部長） 開始時刻となりましたので、札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会を開会いたします。事務局を務めております札幌市まちづくり政策局政策企画部長の浅村でございます。

委員の皆様におかれましては、年度末のお忙しい中、また、足元の悪い中、ご出席をいただきまして、大変ありがとうございます。

本日は、戦略ビジョンの戦略編の答申案のご議論をいただきたいと考えております。

ビジョン編の答申を終えました昨年春から約1年間にわたりまして、専門的見地からご意見を皆様から多数いただきまして、事務局で答申案をまとめてまいりました。

それでは、本日もよろしくお願いたします。

○事務局（中本企画課長） 同じく事務局を務めますまちづくり政策局企画課長の中本でございます。本日もどうぞよろしくお願いたします。

本日は、オンラインも含めて22名の委員の方にご参加をいただく予定でございます。まだ、オンライン予定の木村委員、原田委員がつながっておらず、また、会場の定池委員、柴田委員が遅参されているようですが、会の定足数は満たしておりますし、お時間になりましたので、進めさせていただきたいと存じます。

それでは、この後の議事進行については平本会長にお願いします。

よろしくお願いたします。

2. 議 事

○平本会長 皆様、おはようございます。

本日は最終回でございますので、どうかよろしくお願申し上げます。

それでは、早速、議事に入りたいと思います。

ただいま事務局よりお話がございましたように、本日は戦略編の答申の内容を確定したいと考えております。

最初に、事務局より資料の説明をお願いします。

○事務局（中本企画課長） ボリュームがありますので、少し長い説明になるかもしれませんが、なるべく端的にご説明したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

最初に、A3判横の資料1の札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会の検討経過をご覧ください。

こちらは、これまでの議論の経過と今回の配付資料の位置づけを再確認していただくものです。

この資料の上段にありますとおり、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンのビジョン編につきましては、令和3年度の1年間、ご審議をいただきまして、目指すべき都市像、まちづくりの重要概念、各分野の基本目標、目指す姿を定めました。

次に、下段にありますとおり、ビジョンの実現に向けて行政が行う施策を定める戦略編について、令和4年度の約1年間、ご審議をいただきてきました。

会議の日程と扱った内容をイメージ図で表現しております。

事務局で作成した検討資料に、都度、ご意見をいただき、それを反映したものを改めて確認していただき、ご意見をいただくということを繰り返してまいりました。

下段の左側に戦略編の第1章、第2章、第3章と切り分けておりますが、これに対応する検討過程を右側に整理しています。

一番右の欄の審議会2月6日、本日という欄に第1章、第2章、第3章ごとの本日お配りしている資料の対応関係を明示しています。

第1章の分野横断的に取り組む施策については、本日は参考資料1にまとめさせていただいております。

ざっとご覧いただきますとお分かりのとおり、非常に細分化されておまして、細かく番号を切り分けていますが、重要概念であるユニバーサルの検討資料が参考資料1-1-1、重要概念であるウェルネスの検討資料が参考資料1-1-2、スマートの検討資料が参考資料1-1-3、人口減少緩和策の検討資料が参考資料1-1-4という区別になっています。

その間には、参考資料1-2-1から参考資料1-2-4まで、A4判横の資料を挟んでいますが、こちらはそれぞれの意見対応表になっていまして、いただいたご意見に対する対応関係を整理しております。

本日は、お時間の都合上、説明できる範囲が限られております。大変恐縮ではございますが、意見対応表については、特に皆様ご自身のご意見が反映されているかどうかというところ、あらかじめお目通ししていただいている前提で進めさせていただきますので、ご了承をいただけますと幸いです。

同じく、戦略編の第2章に関わる8分野の検討資料が、本日の参考資料2になります。こちらも参考資料2-1-1から細分化しており、同じような構成です。

最後に、第3章の行財政運営の方向性の検討資料が参考資料3となります。こちらも資

料と意見対応表に分かれて添付をさせていただいております。

これらの資料を最終的に冊子の体裁に整理をしたものが本日お配りしている資料2という第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン戦略編というタイトルをうったものです。

これが答申案となりますが、構成、体裁については、11月から12月にかけて開催した専門部会で審議していただいた内容を踏まえて作成をいたしました。

今回の答申案の作成に当たって特に意識した点を先に少し触れさせていただきますと、今後10年間で札幌市がどう変わるのか、どこに力を入れていくのかを端的に分かりやすく伝えるように工夫しております。

後ほどご覧いただきますが、第1章ではイラストを用いたり、第2章ではそれぞれの分野の先頭に充実・強化することを特徴的に掲載したりするという工夫を行っております。

本日は、この資料2の内容について、少しボリュームあるのですが、一通り触れさせていただきたいと思います。

大前提といたしまして、参考資料で議論していただいた内容は、資料2の答申案に全て盛り込まれているという前提で構成をしておりますので、ご承知おきください。

これまでの議論でこのようなことがあったよねというような振り返りの意味も含め、本日はこれをざっとなぞらせていただきたいと思います。

最初に、資料2の4ページをご覧ください。

こちらは、第1章の分野横断的に取り組む施策の導入部分となります。

分野横断的に取り組む施策の設定の考え方という文章を掲載していますが、この文章の中に複雑化するまちづくりの課題に立ち向かうため、分野横断的にプロジェクトを設ける旨、その意義を説明しています。

6ページ以降は、各プロジェクトの内容を掲載しております。

最初に、ユニバーサル（共生）プロジェクトです。

中段下から7ページにかけて整理をしておりますが、プロジェクトを3本柱で整理させていただいております。

①が移動経路のバリアフリー、②が制度・情報面での支援、③が心のバリアフリーの浸透と誰もが活躍できる環境の整備で、検討していただいた資料の流れに沿って柱を整理させていただいたものです。

おめくりいただきまして、8ページには、このプロジェクトの推進による10年後の札幌市の姿を説明文で表すとともに、その説明文を視覚的に伝わりやすくするよう、イラストを作成し、掲載しています。

また、9ページには、このプロジェクトのロードマップを掲載しております。

より詳細なスケジュールについては、この下に個別計画等がぶら下がりますので、その議論を通して定めていくこととなりますが、ここでは戦略ビジョンに掲載するレベルの大まかなスケジュールを掲載させていただいております。

さらに、下段になりますが、このプロジェクトの進捗を図る成果指標を掲載しておりま

す。プロジェクトを特徴的に多角的に捉えることのできる指標設定をと考えて選んでいますが、ユニバーサルプロジェクトに関しては、国が定めるバリアフリー法に基づく基本方針を参考に、成果指標を三つ設定しております。また、まちのバリアフリー化が進んでいると感じる市民の割合、心のバリアフリーという言葉の認知度、高齢者や障がいのある方等の立場を理解して行動ができている人の割合です。

それぞれの真ん中の現状値というところをご覧ください。速報値となっておりますが、1月から12月に調査を実施しており、1万名に無作為アンケートを送らせていただいて、3,200件の回答を得られているのですが、現在集計が終わっているのが2,500件程度であるため、速報値とさせていただきます。実際の答申書には確定値へ差し替えて掲載したいと考えています。

それから、右の欄の目標値についてですが、この答申書の段階では、現状値より上昇させるぞという方向性だけを掲載させていただきます。もちろん、最終的には具体的な目標値を定めますけれども、答申を受けた後、ほかの現状値といえますか、アンケート以外にも参考にできる数値がありますので、それも踏まえ、札幌市において責任を持って目標値を設定したいと考えております。

一方、各プロジェクトについて同様の構成を取っておりますので、簡単に触れさせていただきます。

10ページは、ウェルネス（健康）プロジェクトについてです。

こちら3本柱で整理していきまして、①の身体的な健康のうちのソフト面、②の身体的な健康のハード面の取組としてウォーカブルシティの推進、③の人生100年時代の学びと社会参加としての精神的、社会的な健康です。

12ページは、ウェルネスプロジェクトの推進による10年後の札幌市の姿を説明文とイラストで表現しています。

13ページは、同じくプロジェクトのロードマップを掲載しております。

成果指標については14ページになりますが、全部で五つの成果指標を設定しております。

おめくりいただきまして、16ページからスマート（快適・先端）プロジェクトについてです。

検討資料の段階ではA3判2枚の資料でご議論をいただきましたが、少しボリュームが多いということで、プロジェクトを二つに分けさせていただきます。

プロジェクト1については、スマートシティの推進と人材育成・産業競争力の強化と設定をしました。こちら3本柱で整理していきまして、①は行政のデジタル改革、②は地域社会のデジタル改革、③は人材育成・産業競争力の強化です。

18ページは、検討資料に掲載をしていたスマートシティの概念をコラム調に掲載しております。

19ページは、スマートプロジェクト1によって10年後の札幌市がどのようなようになって

いるかの説明文とイラストです。

20ページは、同じようにプロジェクトのロードマップと成果指標を掲げております。

21ページからはスマートプロジェクト2となりますが、こちらにはゼロカーボンの推進と雪との共生、雪の利活用を整理させていただきました。3本柱となりますが、①はゼロカーボンの推進、②は雪との共生、③は雪の利活用です。

22ページは、プロジェクトの推進による10年後の姿を整理しております。

23ページは、ロードマップ、そして、成果指標となります。

23ページの成果指標のうち、真ん中の除排雪の実績を数値化できる指標というところだけは、申し訳ございませんが、空欄となっています。事前送付版の資料では市民意識調査の結果を入れていましたが、雪の降り方にかかなり大きく左右されるといいますか、端的に申し上げると、大雪になると悪くなって、雪が少ないとよくなるという傾向があつて、実際に除雪をした量といえますか、そこにどういう頑張りがあったかを測る指標としてはばらつきが大きいということで、より適切な指標がないかどうかを市で検討している段階です。もし今日の段階で皆様からご意見があればぜひお寄せいただければと考えています。

24ページからは人口減少緩和プロジェクトを整理しております。

プロジェクトの3本柱としては、①の質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり、②の結婚・出産・子育てを支える環境づくり、③の若い世代へ向けたアプローチの強化、大学との連携等の新しい取組です。

26ページは、プロジェクトの推進による10年後の姿です。

27ページは、ロードマップ成果指標ということで、同じように整理をしています。

続きまして、第2章についてです。

30ページをご覧ください。

第2章のまちづくりの基本目標ごとに取り組む施策の導入部分に当たります。特に、ここは分野ごとに整理をしてきましたので、11月から12月の専門部会の中で分野ごとに切り分けることで関係性が見えなくなるテーマもあるのではというようなご指摘を繰り返しいただいておりました。ここの検討を行いました、何かのテーマで切ると、どこかで切れて見えるという非常に難しい側面もございましたので、分野の縦割りになるのではなく、分野間の連携を持って取り組んでいくのだということを導入部の文章として掲載させていただきました。

おめくりいただいて、32ページからは一つ目の分野である子ども・若者分野についてです。

分野ごとで同じ構成のスタイルを取っていますが、冒頭に「充実・強化します！」という点線囲みの欄を設け、特徴的なプロジェクトを前のほうに持ってきているという工夫を行っています。

これは、検討資料の段階では、目指す姿ごとに充実・強化することという赤枠の欄で掲載していましたが、この答申案では、分野全体を通して、より特徴的な項目に絞っ

て充実・強化しますという欄に集約しております。

また、その下の基本目標と目指す姿にぶら下がる施策については、検討資料段階では文章がずらっと連なっている構成でしたが、より読みやすくなるよう、同じようなグループごとにタイトルを振り、また、①や②と数字を振っていますが、グルーピングし、表現を精査しつつ、検討資料に盛り込んでいただいた項目については全てこちらに落とし込むという作業を行いました。

子ども・若者分野の概要ですが、まちづくりの基本目標1の実現に向け、(1)の目指す姿1では、①の社会全体による子育て支援の充実や子育ての悩みの緩和、あるいは、④の妊産婦等の孤立などの軽減などを議論していただき、掲げております。

35ページをご覧ください。

基本目標2として、(1)では②の虐待やいじめなどへの対応、(2)では①の支援や配慮が必要となる子どもや家庭への支援、36ページに移りますが、③の子どもの第3の居場所づくり、(3)では①の様々な困難を抱える若者への支援を掲げております。

同じく36ページですが、基本目標3として、(1)では①の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進などを掲げています。

37ページの下段ですが、成果指標の欄を設けています。

分野ごとの成果指標に関しては、同じ考え方で成果指標を設定したいと考えておりまして、基本目標に掲げた内容が実現されているかを市民に5段階評価で尋ね、毎年、データを取り、経年変化を見ていきたいと考えています。

現在、ここに数値は入っていないのですが、別の資料に一覧として全分野をまとめて掲載していますので、最後に改めて触れさせていただきたいと思います。

続きまして、生活・暮らし分野になります。

38ページをご覧ください。

基本目標4として、(1)では①の健康意識の向上と健康づくりなどへの参加の促進と②働く世代の健康増進、39ページに移りますが、(2)では②の身近な地域における学びの機会の創出などを掲げています。

その下の基本目標5として、(1)では②の地域包括ケアの推進、41ページに移りますが、(2)では①の市有施設や交通施設、民間施設などのバリアフリー化の推進、(3)では①の区役所などの窓口の利便性の向上、42ページに移りますが、(4)では①の地域特性に応じた交通環境の維持・確保などを掲げております。

続きまして、地域分野になります。

44ページをご覧ください。

基本目標6として、(1)では①のジェンダー平等の推進と多様な性への理解の促進と②の障がいのある人の個性を尊重し支え合う取組の推進、45ページに移りますが、(2)では①の多様な交流の促進と②の国際交流などの促進を掲げております。

基本目標7として、(1)では①のまちづくり活動の担い手の育成・確保、46ページ

に移りますが、（２）では①の市政情報などの効果的かつ効率的な発信と②の市民の市政参加の促進、４７ページに移りますが、（３）では①の町内会活動などへの支援と②の地域包括ケアの推進、４８ページに移りますが、（４）では①の多様な主体の協働によるまちづくり活動の促進などを掲げております。

おめくりいただきまして、５０ページからは安全・安心分野になります。

基本目標８として、（１）では①の災害の発生前に発生後の応急・復旧・復興期の対策についての計画の見直し、５１ページに移りますが、（２）では②の効果的な災害情報の提供、５２ページに移りますが、④の有事の際の安定的な医療介護サービスの提供、（３）では①の災害への備えの促進と②の地域防災活動の活性化などを掲げております。

５３ページをご覧ください。

基本目標９として、（１）では①の犯罪被害の防止と被害者への支援と③の消費生活に関する被害への対策、５４ページに移りますが、（２）では⑤の質の高い消防救急サービスの提供などに取り組むことを掲げております。

続きまして、経済分野になります。

５６ページをご覧ください。

基本目標１０として、（１）では①の食産業のさらなる活性化と②の観光の高付加価値化と国内外からの誘客の拡大、５７ページに移りますが、（２）では①のＩＴ産業の成長の促進と②のクリエイティブ産業の成長の促進と③の健康・福祉医療分野の産業の成長の促進を掲げております。

基本目標１１として、（１）では①の中小企業の経営基盤の強化、５８ページに移りますが、（２）では①のデータや先端技術の活用による生産性などの向上やサービスの創出、（３）では①のスタートアップのさらなる創出、（４）では①の新たな産業やビジネスの創出などに取り組むことを掲げました。

５９ページをご覧ください。

基本目標１２として、（１）では①の雇用の安定的な確保と道外・海外からの人材の誘致、（２）では①の多様な人材の活躍機会の創出、（３）では①の働きやすい就業環境の整備などを掲げています。

続きまして、スポーツ・文化分野になります。

６０ページをご覧ください。

基本目標１３として、（１）では①のウィンタースポーツに参加しやすい環境づくり、６１ページに移りますが、（２）では②のウィンタースポーツ大会の誘致・開催などを掲げております。

基本目標１４として、（１）では①の誰もがスポーツを楽しむことができる環境づくり、６２ページに移りますが、②のスノーリゾートとしてのブランド化などを掲げております。

６２ページをご覧ください。

基本目標１５として、（１）では①の誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくり、

63ページに移りますが、②の文化芸術活動を支える人材等が活躍することができる環境づくり、(2)では①の札幌市ならではの文化芸術の世界への発信、(3)では①の文化・文化財の保存・活用と未来への継承などを掲げております。

続きまして、環境分野になります。

66ページをご覧ください。

基本目標16として、(1)では①の家庭や事業所などにおける省エネルギー化の促進、67ページに移りますが、(2)では①の都心の脱炭素化・強靱化、68ページに移りますが、(3)では②の地域資源の利用の促進、(4)では①の環境保全などの取組への市民参加の促進などを掲げております。

69ページをご覧ください。

基本目標17として、(1)では②の良好な都市環境の維持・創出、(2)では②のみどりが有する多様な機能や魅力の活用などを掲げております。

続きまして、都市空間分野になります。

72ページをご覧ください。

基本目標18として、(1)では①の計画的・戦略的な土地利用の推進、73ページに移りますが、(2)では①の都市機能の向上、集約や歩きたくなる空間の形成、75ページに移りますが、(3)では①の住宅市街地における歩きたくなるまちづくりの推進と④の地域コミュニティエリアの形成による地域の活性化や魅力の向上、76ページに移りますが、(4)では①の持続可能でシームレスな交通ネットワークの確立などを掲げております。

同じく、76ページの下からは、基本目標19として、(1)では③の都心の交通体系の強化や歩きたくなる空間の形成、78ページに移りますが、(2)では①の都市機能のさらなる高度化や集積、80ページに移りますが、②の情報発信・プロモーションの強化などを掲げております。

82ページをご覧ください。

基本目標20として、(3)では①の道路や広場などの空間の有効な利活用などを掲げております。

以上が第2章です。

最後に、第3章となります。

86ページをご覧ください。

こちらは、検討していただいた資料と同様に、まずは現状の整理を前半に持ってきて、86ページから88ページで整理しています。次に、行政運営の目指す姿と取組方針・取組例を89ページから91ページに整理したところです。そして、財政運営の視点と取組方針については、中期実施計画において各事業の事業費の見込みを定め、中期財政フレームを掲げるということで、視点とする取組方針を92ページから93ページに整理させていただいております。そして、94ページは、4として、北海道という地域にお

ける札幌市の役割とそれに係る取組方針を、95ページは、札幌市の計画体系を基に中期実施計画や個別計画の策定を進めていくことを改めて説明しております。

なお、第3章については、9月の審議会の際には、特に協働、共に働くというテーマについて、役所の内部のことばかり触れられているけれども、より外に目を向けていく必要があるのではないかとのご指摘を繰り返しいただいておりましたので、その旨を反映させていただきます。また、構造上、役所の中に縦割りが残っているということは事実として認めざるを得ないと思っておりますので、役所の中のことも引き続き言わせていただいて、両方に取り組んでいくのだということ盛り込んでおります。

最後に、参考資料4をご覧ください。

11月から12月にかけて指標設定のために市民にアンケート調査をさせていただいた結果を整理したものです。

1枚目は、アンケート結果の速報値の数字を一覧で表示したものです。

先ほどの答申案では、指標のところを空欄としてのご説明させていただきましたが、この数値がそれぞれ入ると受け止めていただければと思います。

一番下のところに小さく書いてあるのですけれども、そもそも、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンを知っていますかと聞いております。しかし、認知度については市民の1割に満たないという非常に厳しい結果が示されております。この結果を我々も真摯に受け止め、頑張っていく必要があるという思いを新たにしておりますが、パブリックコメントや広報さっぽろでの周知のみならず、様々な世代、属性の方を対象に、ワークショップ等で意見交換を行ってきておりますし、今後も対話型の取組を広げていきたいと考えております。最近若い方たちとの意見交換の中でこの戦略ビジョンのことをSNSでつぶやいてくれるというような動きも出てきておりますので、戦略ビジョンそのものをただ知ってもらうだけではなく、まちづくりと一緒に考えてもらう動きを広げていきたいと思っております。

札幌市の公式LINEをご利用の方はご存じかもしれませんが、戦略ビジョンをお笑い芸人の方に紹介していただくような動画が出来上がります。このようにして、いろいろなツールを活用し、いろいろな世代に浸透させていきたいという考えです。

この資料を一覧で真ん中のところに表示している分野別のものにつきましては、その後ろにどんなアンケートを行ったかということで、実際のアンケートをつけております。

それぞれの分野ごとに基本目標が実現していると思うかどうか、0から5までの数字を振っていますが、平均して数値を取ったものが1枚目の評価点ということです。

全体を俯瞰してみますと、子ども・若者分野や地域の分野、経済の分野は3点を切っているような項目もあり、まだ伸びる余地があるのかなと受け止めております。アンケート調査なので、市民の主観の要素がどうしても入ってしまうのですが、少しでもこの数値を上げていけるように努力していきたいと考えております。

なお、参考資料の一番後ろにA3判の資料を折り畳んで2枚おつけしています。

こちらは、今回添付をしたアンケート調査のほか、過去に取ったデータなど、成果指標に掲げる予定のものに関連するものをデータとして載せております。答申案では現状値を載せるのですけれども、単年度で1回きりのアンケート結果を現状値としていかどうかは項目によって議論のあるところですので、ほかにも参考になる数値を拾い、市で検討を進めていきたいと考えているところです。

長くなりましてすみませんが、私の説明は以上です。

○平本会長 どうもありがとうございました。

ただいまご説明がありましたように、ここまでの会議で委員の皆様方に出していただきましたご意見の全ては参考資料にまとめられておりまして、その参考資料に基づき、資料2の冊子体のものをつくったということです。

また、資料2の第1章には、イラストやロードマップなどを付け加え、読まれる方に分かりやすいようにということをやっているとのこと。そして、成果指標は、第1章と第2章とで目指すところが違っているということもあり、違うものを取り上げているということです。

今日、皆様方に審議していただき、その内容を反映した答申書を3月上旬に市長に手交するという事を考えておりまして、また、今後設定することになっている成果指標につきましては手交した後市でお考えをいただくということです。

この1年間でここまでのものができたわけですが、大変膨大ですので、第1章、第2章、第3章と分割してご審議をいただきたいと思っております。

まず、第1章についてご意見等があればお出しいただきたいと思っております。

ただ、時間が限られておりますので、11時までの20分ぐらいでご審議をいただければと思います。それでは、委員の皆様方、お気づきの点がございましたら、手を挙げていただき、ご発言をいただければと思います。

○吉岡委員 2点ございます。

まず、文章のところの一つ気になったところがあります。

6ページの1のユニバーサル共生プロジェクトのところですが、まず、高齢者の物理的な制限のことが書いてあって、その下には男女平等の意識の問題が書いてあるのですけれども、上から8行目の「加えて、地域での交流等の重要度が低い数字となっているなど、地域意識の希薄化が明らかになっています」と書いているのですけれども、少し分かりにくいかなと思いました。

これは、ビジョン編で示した市民アンケートなどで地域の交流に関して充実度も重要度も低くなっているということだったと思うのですよね。ですから、「男女の平等意識が低くなっています。加えて、」と続けてしまうと、そこが分かりづらくなると思いたので、多世代交流など「地域の交流の」ということが分かるような書き方がよろしいのではないかなと思いました。

もう一つは、ちょっと大きな話になってしまうもので、この段階でお伝えしていいのか

という迷いもあるのですけれども、せっかくの機会ですので、お伝えしたいと思います。

4ページは、ビジョン編、戦略編ということで、例えば、戦略編はユニバーサルプロジェクト、ウェルネスプロジェクト、スマートのプロジェクト1とプロジェクト2と書いてあって、その右側の水色ところで人口減少緩和プロジェクトとなっていますよね。行政の取組として人口減少緩和という言葉が分かりやすく、こういうプロジェクト名がいいのだということであれば特に異論はないのですけれども、私の捉えとしては、人口減少社会だけれども、それに負けない輝かしいまちをつくっていくのだという積極的なイメージで戦略ビジョンをつくってきたと感じていたのです。25ページが人口減少緩和プロジェクトの内容になっていて、この内容自体はよろしいと思うのですけれども、人口減少緩和という言葉でいいのかどうかについては少し検討してもいいのかなと思いました。

人口減少というのは世界的に先進国では同じですが、下がっていく状況を緩和するというのは、何か低くなっているものを止めるというマイナスな捉えなのではないかと私には映るのです。

例えば、こういう書き方ではなく、若い世代に選ばれる魅力創出プロジェクト、若者に選ばれるまちプロジェクトなど、少し積極的な言葉を使って表現をしてもよいのではないかという印象を受けました。

ただ、人口減少を緩和するということがやはり大事だということで行政の中でこの言葉を使ったほうがより分かりやすいのだということであればそのままでもよろしいと思うのですけれども、どうでしょうか。

○平本会長 ありがとうございます。

1点目についてはご検討をいただけるかと思います。

2点目についてはちょっと大きい話でした。まさに、先進諸国の中では、人口減少はもうやむを得ない流れになっている中、今、吉岡委員がおっしゃったように、札幌市を選んでもらえるためには何をしたらいいのということが実際には書かれているのです。でも、人口減少を緩和するというやや消極的な言い方でいいのかというご指摘なのですが、事務局としてはいかがでしょうか。

○事務局（中本企画課長） ご指摘をありがとうございます。

これまでの戦略ビジョンの検討経過で札幌を魅力的なまちにして若者を集めるというのは戦略ビジョン全体を通して言っています。中でも、第1章には特色的な部分だけを引っこ抜いて掲載をしたという手を取ってしまして、ここではそのうちの人口減少緩和を取り上げさせていただいているということです。

○平本会長 吉岡委員のお気持ちは分かりますが、これが全てではないということです。戦略ビジョン全体でまさに魅力ある札幌をつくるということでした。

○吉岡委員 全体を通すと積極的な内容だけれども、ここではあえて人口減少緩和と使ったほうがよろしいということで理解しました。また、この冊子というか、戦略編自体は、イラストも分かりやすいですし、よくまとまっているなどと思って感心しながら見ておりま

した。どうもありがとうございます。

○平本会長 ほかにご意見やコメント等があればぜひご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○山本（強）委員 まず、ご苦労さまでした。

また、4ページと5ページを見ますと、スマートというキーワードが大変重く捉えられていて、正しい認識だなと私は思います。ただ、その書き方です。なぜ人口減少緩和プロジェクトだけが離れているのか、それにちょっと違和感があります。

といいますのは、私もどちらかという技術系の人間で、今、札幌市ともいろいろな話をするところですのでけれども、札幌市の捉え方としては、スマートシティ化、つまり、今、国が進めるデジタル田園都市構想のイメージがありますね。それは、都市や社会のデジタル化、スマート化によってこれから行く先の日本を何とかやっつけようという志ですよ。そうすると、スマートというのは、個々のプロジェクト、縦のプロジェクトではなく、インフラとして全体にかかるのだらうと私は思っています。では、人口減少緩和プロジェクトに都市のスマート化は関係ないのかと読まれますよね。それは全然違って、吉岡委員の話が全くそのとおりなのです。

結局のところ、人口減少が不可避と言えるかは分からないですけれども、成熟社会においては無限の経済成長は考えにくいわけですから、安定状態となるわけです。そこで、減少する若年労働力といいますか、若いパワーをどこで補うかという議論になりますよね。そこに出てくるのが都市や社会のスマート化なのだろうと思うのです。そう考えますと、これは全体にかかっているのではないかと思います。

これは変な疑問なのだけれども、ほかのテーマに関するプロジェクトは一つしかないのに、なぜスマートだけが二つあるのか、そう考えると分かりやすいですよ。つまり、正面から見えるスマート化、例えば、マイナンバーカードや行政手続のオンライン化という見えるスマート化が一つで、この中にもありますけれども、データスマートシティ札幌など、インフラの話が一つです。これらは一つで説明しにくいので、こう分けたのだと思うのです。

スマートという言葉でどこまでくるかはあるでしょう。つまり、インフラの部分と見えるサービスの部分を一つに捉えてもいいのですが、そうすると、スマートについては、プロジェクト1とプロジェクト2を通じ、全体にかかるインフラのイメージを出したほうがいいのではないのかなと思います。

ちょうど吉岡委員から大変いいお話を伺ったわけで、人口減少緩和ということで、人口を増やすという一側面的な話にするのではなく、スマートシティ化と一緒に考えていただきたいと考えております。

○平本会長 重要なご指摘でした。

この図がそういうミスリーディングな図になっているだけで、人口減少緩和とスマートを切り離して考えているわけではないと思うのですが、ここの改善方法はありますでしょ

うか。

○事務局（中本企画課長） 2ページをご覧ください。

ビジョン編でご議論をいただいたときの図を掲載しておりまして、ユニバーサル、ウェルネス、スマートを分野横断の概念として、その第2章の各分野のまさに山本（強）委員がおっしゃったようなインフラのような横串の位置づけで整理していました。

今回、そこに人口減少緩和プロジェクトを位置づけるに当たり、どう表現するのがいいかを考え、4ページの図にしたのです。図の一つ上の段にビジョン編で札幌市の現在と将来に関する考察のまとめということで、人口構造をはじめとする云々、また、人口減少の緩和を進めることが必要という二つのテーマを設け、それに基づき、図を分けたということです。

ただ、図の見せ方の問題が大きいなと思いましたので、工夫させていただきます。

○平本会長 山本（強）委員がおっしゃった趣旨は事務局にもちゃんとご理解をいただいていると思うのですが、4ページの下図に引っかかるということでした。しかも、空白が結構広いため、分断されて見えてしまうということなのかなと思うので、図の描き方を工夫していただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○大西委員 成果指標がそれぞれ設定されていますが、どのくらいの間隔でこれを評価しようと考えているのでしょうか。10年が経ってから初めてこれを評価し、達成できていなかったらどうするのかということになりますので、恐らく、途中の段階で中間評価なりをされ、不十分なものは方針を変えたり、重点的に行うなどの工夫をしたり、軌道修正することになると思います。

例えば、14ページの成果指標ですが、健康寿命の延伸は、1年間、何かに取り組んだからすぐに延びるというものではないですね。ですから、こういった指標については長期的に評価する方針でよいと思うのですが、中間評価で目指す姿を実現できているかどうかと市民の意識を問うたとき、そう感じないという意見が多かった場合、修正をかけていくためには、評価をどのくらいの間隔で想定されているのかについてお伺いしたいと思います。

○事務局（中本企画課長） 原則として、毎年、数値を取って見ていきたいと思っています。今、大西委員のご指摘のとおり、市民の健康寿命みたいな指標は、そもそも、指標自体を3年に1回しか取れないという条件もございますので、そうしたものは長期的に見ていきたいと思っています。

○大西委員 もう一点、同じく14ページでスポーツをする市民の割合を成果指標に設定されているのですが、前のページのロードマップ等を見ると、ウォークアブルシティの推進ということですので、歩くことが推進されているかどうかを評価するべきだと思います。スポーツ・文化のところでスポーツをする人の割合が増えることを評価するのは適切かなと思うのですが、ここでは市民がどれくらい歩いているかという指標を設定するのが適切で

はないかなと思います。

健康さっぽろ21の身体活動の領域の評価では、日常生活における歩行の程度を評価しているはずですが、もともとは市民の平均歩数で評価していたのですが、中間評価のときには、時間に直し、日常生活において1日何分ぐらい歩いているか、20歳以上の男性90分、女性80分を目標として、歩く時間が増えるかどうかを評価していたと思います。ですから、ウォーカブルシティが進んでいるかどうかを評価する上では、歩く時間が増えているかを指標としたほうがより直接的に評価ができるのではないかなと思います。

数値目標自体は、この後に設定されるということですがけれども、ほかの分野も含め、項目自体が本当にそのプロジェクトを適切に評価できる指標かどうかという整合性についても確認しておく必要があるます。

○平本会長 実は、成果指標については私も事前説明のときに意見交換をさせていただいたのですけれども、今のウォーカブルシティに限定したコメントがあればいただきたいと思います。

○事務局（中本企画課長） スポーツをする市民の割合に関する問いでは、ウォーキングも選択肢の一つとしていたので、ウォーカブルシティの指標にもなろうかと設定したのですけれども、今の委員のご指摘も踏まえ、指標については見直したいと思います。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

それでは、定池委員、山本（一）委員の順番でお願いいたします。

○定池委員 2点あります。

まず、7ページの②の当事者への支援と情報発信の充実のところの2番目の災害時における要配慮者などへの云々というところについてです。

前回、意見を聞いていただいたところではあるのですが、改めて読んでみると、男女共同参画の視点に立った防災体制づくりと書いていただいております、これは大切なことなので、このまま残していただきたいのですが、その上で、例えば、男女共同参画と多文化共生のように、ジェンダーだけではなく、その前段のところの要配慮者のところでは、注でも出していただいておりますけれども、外国人などともありますので、要配慮者にプラスして、男女共同参画、そして、多文化共生と書いていただくと、事前の対策でもきちんと網羅している、目配りしているということがきちんと分かるので、その文言をぜひ入れていただければと思いました。

そのときの分かりやすい成果目標の一つとしては、市の防災会議の女性委員の比率がどのくらいであるか、外国人の方が入っているかなどで可視化できると思います。また、自主防災組織の中に女性役員がどのくらい入っているかを数値化することで測れるかと思えます。

次に、21ページになります。

意見を反映していただき、ありがとうございました。ただ、②の雪との共生の3行目のところでちょっと気になるところがありました。建設産業の活性化の取組による担い手確

保などを書いていただいております。こちらも昨今の事情に鑑みると非常に大切な文言ですけれども、それだけではなく、全体を見ると行政でも頑張りますとあり、産業の部分でも建設産業の方々の担い手を確保するとも書いてあるのですが、国の取組を見ていると、地域の方々との協働連携といいますか、除雪での共助の取組が既になされていて、札幌市においてもそういった取組をされているところはあると思うので、市民との協働や共助の支援という文言も加えていただけると市民による活動も応援するということが見え、また、連携も見えると思いますので、ご検討をお願いいたします。

○平本会長 1点目は、要配慮者のところにジェンダーの問題、それから、多文化共生の問題も文言として入れるといいのではないかと、それから、それに関連して具体的な成果指標があるのではないかとということでした。また、2点目は、建設産業活性化だけではなく、地域との共助や協働もうたったほうがいいのではないかとということでした。

どこに書くのがいいのかは分かりませんが、ご指摘はごもっともだと思うので、ご検討をいただきたいと思うのですが、簡単にコメントはございますか。

○事務局（中本企画課長） ご指摘のとおりと思います。雪に関しては、共助の取組は既にあるので、ここに表現するのが適切であれば、それが分かるように入れ込みたいと思います。

○平本会長 今のご指摘が反映されるように修正していただければと思います。

次に、山本（一）委員お願いいたします。

○山本（一）委員 私からは24ページの人口減少緩和プロジェクトについて申し上げます。

札幌市が大きく目標に掲げているものとして、子どもが健やかに育っていくということがあったと思います。他地域のことを調べましたら、オランダやフィンランド、アイスランドなどでは、非常に先進的な取組によって世界一子どもが幸せな国というランクの上位になっているのです。今はリモートの時代ですので、どのような取組が大きな変化につながったかをそうした方たちからたくさん学ばせていただければと思いました。あるいは、日本国内でも他地域の非常にいい取組を学ばせていただき、札幌市が大きく発展できるようなプロジェクトにつくり変えていただければと思っております。そうしたことから、ここに海外や先進的な地域から学ぶという文言を加えていただきたいと思います。

○平本会長 いい事例を参考に、ベンチマーキングするということをやったかどうかということですが、これについてはいかがでしょうか。

○事務局（中本企画課長） 子育て施策、あるいは、経済活性化策のようなものが合計特殊出生率にどのくらい寄与しているのか、いま一度、学術的な側面から専門的な調査をしたいと考えています。

それは一つのプロジェクトになってしまうので、細かいところまでは書いていません。でも、そういう考えはありますので、大きな話としてにじみ出せるようであれば反映させていきたいと思います。

○平本会長 いずれにしてもいい事例を学んで取り入れるということは大事なことだと思うので、そういうスタンスを政策形成にきちんと反映させられるといいなと思います。

それでは、時間になりましたので、第2章に移ってよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○平本会長 それでは、第2章の内容についてのご意見等をいただければと思います。言い足りないことについては最後に時間が余ったら改めてご発言をいただきたいと思いますので、これからは第2章の内容について審議します。

いかがでございましょうか。

○高野委員 個別の内容ではないのですが、第2章の指標として、参考資料4で示していただいたアンケート結果を基にモニタリングするという話についてです。

参考資料を読みますと、1万人に配付し、2,548件、回収率が25%ぐらいのことでした。これが低いとは思わないのですが、60代や70代の方から人口比率よりもかなり多くいただけるというのが一般的な傾向なのです。なおかつ、高齢の方と若者を比べますと、高齢の方のほうが批判的ではなく、評価が高いということもあります。しかし、毎年、モニタリングするとなりますと、年齢構成が違うだけで、内容が変わらずとも評価結果が変わってしまうということもあります。これから精査されるということでしたが、回答者の年齢構成を見ていただいた上で、ひょっとしたら札幌市の人口比率に合うような形で重みづけ集計するという必要かもしれません。あまり顕著な差がなければ、そのままでもいいかもしれませんが、それを吟味していただき、これらを成果指標のモニタリング指標としていただければと思います。

○平本会長 社会調査法という学問の領域があつて、その分野でこういう議論が随分活発にされてきておりますし、高野委員のご指摘は重要だと思います。私も重みづけをしなくていいのかなと思っていたので、ご検討をいただければと思います。よろしく願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。

それでは、高橋委員、椎野委員、岡本委員の順番でお願いいたします。

○高橋委員 第2章の成果指標は、市民調査による主観的なものですが、第1章の成果指標は客観的なものが多くなっていますが、そうした違いを出しているのはどうしてでしょうか。第1章は、概念であり、目標ではないので、そうしているのかなと考えたのですが、いかがでしょうか。

○事務局(中本企画課長) 第2章の分野別につきましては、最上位の戦略ビジョンとして何を指標に掲げるかは非常に難しいところがあり、いろいろと検討を進めてまいりましたけれども、どの指標を採用しても全体を見ることはなかなか難しく、戦略ビジョンとしてその分野の全てを見ると考えたとき、このような調査方法があるのではないかという学術的なご助言をいただき、今回の戦略ビジョンについてはアンケートを中心に指標を設定

して見るということにしております。

第1章については、様々ある取組の中から特出しをしたプロジェクトを抜いて掲げておりまして、より実態に即したプロジェクトの進捗を図れる指標が適当だろうということで設定しております。

○高橋委員 考え方は理解できました。

そうしましたら、第2章の成果指標について、補足的に、客観的に測れるような指標も入れてもいいのかなと思います。ここに書かなくてもいいのかもしれませんが、評価のときはそうしたものも使うことを検討していただければと思います。

○平本会長 多分、この下に具体的なアクションプランができ、具体的な事業がつくわけですね。そこで成果目標がきちんと設定され、評価されていくと思います。戦略ビジョンの戦略編の指標と個々の事業の指標が別があり、そちらで客観的に評価されていくのではないかなと思っていましたが、その理解でよろしいですか。

○事務局（中本企画課長） そのとおりです。

○平本会長 それでは、椎野委員、お願いいたします。

○椎野委員 69ページの基本目標17についてです。

ここは文言を少し追加していただくといいかなと思いました。具体的には、グリーンインフラという文言がこの案の中に入っていないと思いますので、それを追加していただきたいということです。要は、みどりの持つ多面的な機能、市街地のヒートアイランド現象の抑制、温度調整の機能、防災・減災、レクリエーションの場を提供するなど、多面的な効果があるのですが、その中でも特に景観的な美しさがみどりの場合は注目されがちですが、インフラの一つであるという位置づけでお考えをいただくという側面を盛り込んでいただけるといいかなと思っています。

具体的に申しますと、69ページの(2)の②のみどりが有する多様な機能や魅力の活用の2行目で、官民協働による雨水浸透緑化等の取組を行いますというところです。例えば、この中に官民協働によるグリーンインフラ（雨水浸透緑化等）の取組としていただくと、その内容がより明確になるかなと思いました。雨水浸透緑化は機能の一つなので、もう少し包括的な用語を使ってもいいかなとも思いました。

もう一つ、これは無理なお願いで、戻ってしまって恐縮ですが、第1章の21ページのプロジェクトの3本柱の①のゼロカーボンの推進のところでは、

今申し上げたグリーンインフラもこれに比べて少し地味かもしれませんが、ゼロカーボンの推進に寄与するような側面がございますので、例えば、市街地におけるグリーンインフラの整備促進という文言が入っているといいかななんて思いました。ちょっと無理な意見なので、採否については事務局に一任いたします。

○平本会長 グリーンインフラという概念は結構包括的な概念で、ゼロカーボンを考えるときにも、その都市の問題を考えるときにもいいのではないかというご指摘でした。これについては事務局でご検討をいただいて、もし反映させられるようでしたら反映していた

だくということにしたいと思います。

それでは、岡本委員、お願いいたします。

○岡本委員 大変な作業、ありがとうございました。

気になっていることが二つありまして、それをお伝えします。

都市分野のところに関わっていますので、都市分野のところをどうしても厚く見ちゃうのですが、76ページの基本目標19の(1)や82ページの基本目標20の(1)などの目指す姿の表現についてです。詳しく丁寧に伝えたいというお気持ちがあふれ出ているので、逆に読み取りにくいといえますか、たくさんのキーワードが乗っかっているので、もう少しシェイプして、下の①や②に分散させ、役割を整理したほうが読み取りやすくなるように思いました。ボリュームが多くなっているまちづくりの目指す姿については伝わりやすさを勘案し、表現を見直していただけたらと思います。

合わせて、このビジョン編をもし市民の人が読み進めたらどうなのかを想像してみました。基本目標の下に目指す姿1や目指す姿2とついていますよね。我々はそういうふうに議論してきたので分かるのですが、目標を立てられていて、それが目指す姿として書かれているわけです。でも、そのつながりについて、初見だと驚くのではないかなと思いました。

最初に基本目標が書かれており、次に目指す姿が書かれているのです。もちろん、目標の中身を理解しやすく、伝わりやすくするために目指す姿として表現したということは分かるのですが、なぜこれらのような目指す姿に表現されるのかとちょっとどきっとしてしまうのではと思いました。例えば、30ページの第2章のところでも前置きの文章はあるのです。5行目や6行目でもまちづくりの基本目標ごとに目指す姿を掲げていますと書いてあるのですが、ここの下に参考として記載のある基本目標というところです。この付近にも「分かりやすくするために目指す姿という表現を使います」と明示してあると、読み進めるときに理解しやすいのではないかと思ったので、工夫してもらえたらありがたいと思いました。

最後に、アンケートや指標のお話がありましたが、今回のアンケートで「分からない」を選んだ人の数字が出ていないのがすごく気になっています。達しているか、達していないかをどう受け止めたかにチェックをつけた人だけ集計されていますが、分からないとつけた人が結構いるのではないかと、何でそこを切り分けて表示しなかったのか、そもそもの切り分けをちゃんと見せていただかないと、そのままのみ込んでいいものだろうかと思いましたので、分かる範囲で教えていただきたいですし、分からないとつけたことをどう捉えるか、教えてください。

○平本会長 まず、1点目は、目指す姿の文言が少し丁寧過ぎて重たいのではないかとことです。ここまでの議論でこうだと思いますので、すぐに軽くするのは難しいと思うのですが、少し長いところを2センテンスに分けるなど、そういう工夫についてご検討をいただけるといいかと思います。

2点目ですが、岡本委員がおっしゃるのは、目指す姿のほうがより上位で、その下に目標があるのが普通でしょうということイメージされたということですか。

○岡本委員 構造としては今のままでいいのですけれども、基本目標をより広く分かりやすく伝えるためだと思うので、そこの関係の明示ですね。

○平本会長 それは第2章の最初のところで少し丁寧に説明をすることで読みやすくなるかと思います。今のご指摘を反映させ、少し分かりやすくしてください。

3点目ですが、分からないに0というポイントが付されており、これが平均値の集計に組み込まれていないのではないかというご指摘ですが、これはどうですか。

○事務局（中本企画課長） 今、数字がさっと出てこないのですが、先ほどの重みづけの話も含め、このアンケート結果をどう評価するのがいいのかを改めて整理させていただき、考え方をお知らせさせていただければと思います。

○平本会長 少なくとも、平均点を取るとき、1から5は満足度が上がっているのだけでも、0というポイントを与えて、そこに分からないという質の違うものを入れて、平均を取ってしまうのは統計学的にはまずいと思いますので、ここはご検討をいただく必要があるかなと思いました。

ほかにいかがでしょうか。

○福士委員 第2章について、とても分かりやすいものをつくってもらい、大変感謝しています。この中でコラムが新しく入りました。市民の目線から見たとき、先ほど岡本委員からも出ていましたけれども、認知度が非常に低いということです。せっかく我々が苦労してまとめたものが札幌市民に分からないので、果たして戦略ビジョンとは何なのかという疑問にぶち当たります。

例えば、75ページです。小学校旧校舎の後活用とありますよね。これは非常にいいものを挙げてもらったなと思っているのですが、現実、学校適正化に伴う統合等が始まっております。しかし、後活用となると非常にハードルが高いのです。現実問題として取り組んでいることがたくさんあるのですが、これに類似するようなコラム関係もたくさん入れれば、市民もさらに興味が湧いて、いろいろな提案のプラスになるのではないかなと思いますので、これを出すときには十分に検討していただければと思います。

○平本会長 ただいまのご指摘についてもご検討をいただけるとと思いますので、事務局で検討していただき、改善できるところはしていただきたいと思います。

次に、中田委員、お願いいたします。

○中田委員 取りまとめ、本当にお疲れさまでございました。

先ほど岡本委員からも話がありましたが、私も思ったことがあったので、お話をしたいと思います。

例えば、32ページの子ども・若者のところのつなぎの部分です。最初に目標があって、その下に「充実・強化をします！」という項目が幾つかあって、その項目にのっとり、目指す姿があると思うのですね。私はずっと関わってきましたので、充実・強化するものが

基本目標のどれに該当するかということはすぐ分かるのです。ただ、ぱっと見たとき、充実・強化するものはどの目標に該当するのか、分かる項目もあるのですが、分からない項目もあるので、一般の方が見たとき、充実・強化するのはこの目標のことなのだと分かった上で次の目指す姿に移るのだと分かる表現だとより分かりやすいのではないかなと思いますので、意見をさせていただきました。

○平本会長 これは改善の余地がございますでしょうか。

○事務局（中本企画課長） ご指摘のとおりだと思います。先ほどの岡本委員からご指摘をいただいたことにも関係しますが、実際にはビジョン編と戦略編をくっつけて一冊にすることを想定しています。ただ、その前提で我々が見落としてしまっている視点があったかもしれません。今、重要なご指摘をいただいたかと思しますので、より読みやすくなるように整理したいと思います。

○平本会長 続きまして、原田委員、お願いいたします。

○原田委員 第2章を全体的に眺めますと、まちづくりの基本目標の中に観光という言葉がないなと気づきました。観光というのは人を動かす仕組みをつくることですが、まちづくりにおいて非常に重要な域外交流型の政策だと思っています。

札幌市民の生活をよくするという基本目標はたくさんあるのですが、やはり、外から人を呼んでこないと真水の経済効果が起きないですし、地域イノベーションも起きないと思うのです。そういうことも含め、今さら感の強い意見になりますが、観光というトーンがちょっと足りないのかなと思いました。

第2章の60ページと61ページに世界屈指のウインタースポーツシティとあるのですが、インバウンドをどう取り込むかという具体的な文言が必要ではないのかなと改めて思いました。

大会誘致をしたり、アスリートを発掘したりはいいのですが、それだけではないと思うのです。通年で人を呼ぶ、特にウインターリゾートとしての札幌です。今、観光庁で国際競争力のあるスノーリゾートの形成プロジェクトをやっているのですが、やはり札幌はすごいのです。具体的な数字を挙げますが、僅か高低差が683mです。ヨーロッパのスキー場は2,000メートルや3,000メートルです。だから、鉱山列車がいるのですが、札幌市では車で30分のところでパウダースノーです。そのベースタウンとなる札幌市には宿泊できるのが3万3,000室、レストランが8,558か所あり、世界屈指のベースタウンと呼べるというのが観光庁の認識なのです。

そこで、どうやって世界から、特にこれからはアジアの富裕層をどう呼んでくるかは非常に重要な戦略になると思っていますので、観光やインバウンドという文言を上手く織り込んでいただければいいなと思いました。

○平本会長 これはどこかに入りそうですか。

○事務局（中本企画課長） 経済分野の56ページから57ページにかけて、基本目標10に観光については落とし込ませていただいております、特にインバウンドの関連は57ペー

ジの一番上の施策に盛り込んだところです。

ただ、スノーリゾートやスポーツツーリズムの観点がスポーツ・文化分野に分かれており、1か所でより強く観光という印象を与えられていないというのはご指摘のとおりだと感じます。そこで、例えば、経済分野の充実・強化のところで今いただいた内容を出しできないのか、工夫できるかどうかを考えたいと思います。

○平本会長 今、中本課長がおっしゃったことと関わるのですが、結局、経済分野とスポーツ・文化分野は、お互いに相互関連しているのですけれども、項目を分けて書いてしまっているせいで分断されて見えてしまうのです。でも、実際に施策を展開するときには行政の縦割りを排除していただき、観光とスポーツ振興をうまくマッチングさせるような施策を打ち出していくということがこれからの10年の札幌市にとっての大きな課題だと思っています。

今の原田委員のご指摘は全くそのとおりだと思いますので、戦略編の書き方として直せるところをご検討をいただくとともに、これからの施策のところでそれをぜひやっていただくということが札幌市にとっての重要なポイントかと思っています。

ほかにかがでございましょうか。

柴田委員、それから佐藤（理）委員の順番でお願いいたします。

○柴田委員 62ページの(2)の①の二つ目の身近なところでスポーツをする・みる・ささえるというところです。文末がアーバンスポーツやバーチャルスポーツなどの新たなスポーツの大会を誘致・開催するとともに、これらへの支援を行いますとなっています。

バーチャルスポーツと書いていますからeスポーツも含めたイメージもあるのかなと思って、最近、eスポーツの方の本を読みました。eスポーツはアートとスポーツの間に立っているのですね。スポーツに欠けていること、アートに欠けていることを比較した言い方があって、スポーツをよくする・みる・支える、つくるとは言わない、アートのほうはつくるというのは非常に強いけれども、するのがちょっと弱いとのことでした。

スポーツをつくるという発想はあまりなくて、誰かがつくったもので回っているわけですね。それに、大会のつくり方は芸術とスポーツでは対照的です。例えば、カンヌ映画祭を誘致するとは言いませんし、アカデミー賞を誘致するとも言いません。でも、スポーツでは冬のオリンピックを誘致するとなります。新しいものをつくってしまえば世界中から応援されるのにと僕は思うのです。ですから、誘致・開催だけではなく、新しい大会をスタートアップする、ハードルが高いかもしれないですけども、入れられるといいなと思いました。

ちなみに、芸術文化ではなぜ誘致しないかという、毎年やりたいからですよ。あるいは、自分の土地だけでやりたいからです。全部を集め、何回もリピートしてということが先に立ってしまい、あまり誘致しないのですけれども、スポーツ分野でもこういう新しいところまで見ているのだったら、そういうことを考えても面白いなと思いました。

○平本会長 誘致・招致だけではなく、スタートアップといいますか、立ち上げることも

考えたらいかがかということで、なるほど、そうだなと思いました。これも文言にうまく反映させることができるかどうかを検討していただくとともに、仮にできないとしても、今、柴田委員のご指摘のような前向きな取組は重要だなと思いました。

それでは、佐藤（理）委員、お願いいたします。

○佐藤（理）委員 39ページの基本目標5の③についてです。

介護サービスについて今回すごく詳しく入れていただき、ありがとうございます。介護保険、在宅介護は、今、介護保険だけでは賄い切れず、札幌市の市町村事業の総合事業と両方で在宅介護を支えています。ここには介護保険などのサービスを受けられると書いてあるので、総合事業も含まれるのかなと思って読んだのですが、その後ろに入るのが介護保険のことだけなのです。制度運営を行うほかとなっていて、その後介護サービスなどの質を向上させる取組と書いてあるのですけれども、この「など」に総合事業が含まれていると考えてよろしいのでしょうか。

中期実施計画などでは総合事業についても細かく考えていくという記載になっていくのか、確認させてください。

○事務局（中本企画課長） そのようにご理解をいただければと思います。

戦略ビジョンの下にはアクションプランという中期計画ができて、具体的な事業が今後組み上がっていくこととなりますが、指摘していただいた点をしっかりと反映できる事業構築を進めていきたいと思えます。

○平本会長 ほかにいかがでございましょうか。

○定池委員 まず、50ページ、51ページの安全・安心の災害に関わるところについてコメントをさせていただきます。

全体的にととてもよくなっていて、ここまで書き込まれているなら札幌市に住みたいと思うような、安全・安心に関してとても充実した内容にさせていただき、感謝を申し上げます。

あえて言わせていただくとすると、50ページのところの（1）の①で、事前復興計画についての調査研究を行いますと書いているところです。札幌市がちゃんと言ってくれたら、トップランナーとしての貴重な事例になります。この文言を書いていたご英断に感謝するとともに、ぜひ調査、研究、そして実践へ生かしていただくようお願いいたします。

また、50ページにある言葉の確認をさせていただきたいと思えます。

それは、応急対策といった言葉です。①でも「応急・復旧・復興期の」と書いていただいていますよね。災害等のとき、応急の前に初動が入ってきて、救援・救助が主な対策になると思うのですが、応急の中に含まれているのでしょうか。それとも、初動・応急・復旧・復興と並べたほうがより全体のフェーズを網羅しているとなるのか、私も専門馬鹿になっていて、言葉の捉え方が怪しくなっているので、内部でご検討をいただければと思います。

同じように、防災という言葉についてです。

今、防災・減災と併記されることも多いので、防災何とかという言葉が一つの単語として成立している場合と防災・減災・対策と併記したほうがいいものが混在してきているので、そうした言葉について、危機対策の部署の方々とも連携していただきながら整理をしていただければと思います。そちらのお手伝いも必要であればいたします。

次に、51ページについてです。

私の認識が間違っていたら教えていただきたいのですが、二つありまして、まず、③の広域的な連携の推進のところですか。前回のコメントで、職員の方の研修などの機会が限られており、ぜひそういうところに予算をつけていただきたいという話をしたのですが、この中では、職員の派遣など、被災地支援ということで、支援しながら研さんを積んでいただくというニュアンスを反映していただいたと思うのですが、研修や研さんは第3章に入ってきているから、ここではあえて入れていないのかどうかを教えてください。

もう一つは④の一番下の雪害の対策のところですか。

前回、こちらについてもコメントをさせていただいたところで、札幌市がどうかは不勉強ですけども、全国的に、雪の事故というのは、屋根からの転落、あるいは、雪下ろしをするとき、特に北海道では、雪下ろしが不要でも、どかっと降ってしまったときに不安になって登ってしまったり落ちる、そうして屋根からやほしごから落ちるのが全国的に多いわけですか。それを市民の除排雪中の事故と書いてしまうと、そのニュアンスをきちんと受け止めてもらえるかが心配です。私の感覚がずれているかもしれないので、特出しの文言が必要かどうかのご検討をいただければと思います。

先ほどは除排雪の共助・協働という話をさせていただいたのですけれども、そこを書いていただくとき、市民の事故対策についてきちんと書いていただくことの両輪が必要だと思いますので、ご検討をお願いしたいと思います。

また、細かいことですが、参考資料2-1-4に避難所のような写真が載っていますよね。これは訓練なのか、実際のものなのか、判別はつかないのですけれども、今、例えば、段ボールベッドや間仕切りが避難所に入ってくるのが当たり前です。避難所開設当初だということとはよくあるのですけれども、これが札幌市の避難所の姿だとイメージを持たれると人権に配慮していないとなってしまいます。仮に入れているとしても、写真の使い方についてはご検討をいただければと思います。

次ですが、私は専門部会員としてコメントしていないので、経緯が分からず、的外れだったら恐縮ですが、63ページの(3)の①の札幌市の文化・文化財の保存・活用と目指す姿3のところですか。大分前、審議会において札幌市の博物館はどうなっているのかかというコメントをさせていただきましたが、ここが関連するのかなと思います。的外れかもしれませんが、博物館のことは盛り込めないのでしょうか。

というのも、昨日、チ・カ・ホを歩いていたら、博物館活動センターのイベントがやっているところを通りかかったのです。市民の方がたくさん参加されており、非常にすてき

だなど思いました。こういうイベントも大切ですし、また、施設があるということも同時に大切だなど思ったので、教えていただければと思いました。

○平本会長 応急の前に初動が必要ではないか、あるいは、防災と減災をどうセットにしてワードとして扱うのか、それから、雪害への認識について、避難所の写真、博物館のことについてご指摘をいただきましたので、コメントできることに簡単にいただけますか。

○事務局（中本企画課長） 言葉については現場とも調整させていただいて、より適切な表現があれば置き換えます。

また、51ページの一番上段の施策で職員の派遣に関することです。実際問題、被災地支援で派遣し、そのときに実地の経験を持ってきて職員が戻ってくるパターンが多いところです。ただ、被災地に応援に行くことを研修と表現してしまうのは苦しいという議論があり、明示はしてないのですけれども、意味合いとしては含まれていると解釈していただけるとありがたいです。

そして、雪の屋根からの落雪、市民の除排雪中の事故というところについてです。札幌の場合、屋根の雪下ろしをするほどの豪雪になる年はそんなに多くないということもあります。除雪作業をするとき、ちょっと体を痛めたり、滑って転んだり、そういう事故もあって広い表現にしたのですが、ご指摘を踏まえて改めて見ると、屋根からの落雪と市民の除排雪中の事故が何か別物のように切り離されているようにも読めるのかなと思ったので、表現の仕方は工夫したいと思います。

それから、参考資料の写真についてです。重要なお指摘をありがとうございます。こちらはこの会議での議論用として、今後、外に出していくものについては配慮したいと思います。

最後に、博物館についてです。計画の進捗状況等を踏まえ、今の表現の中に盛り込んだと解釈していただけるとありがたいです。

○定池委員 私の言い方に問題があったかもしれないですが、先ほどの職員の派遣と研修というのは別で言っているつもりでした。現場に応援に行き、実際に現場のニーズなどを見聞きし、それを組織に持ち帰っていただくということ、また、平時のいろいろな機関でやっている研修で知識などをインプットしていただくことや、関係しそうな自治体との関係を紡いでいただくことのどちらも大切だと考えておまして、そこが一緒になって伝わってしまっていたとしたら申し訳ないということを補足させていただきます。

○平本会長 第2章についての予定されている時間が来ましたが、最後に吉岡委員からお願いいたします。

○吉岡委員 細かいことですが、もし可能であればということです。

33ページの上から2行目に「ひとり親家庭等の生活の安定と」という文章があります。ひとり親家庭と言いますと、母と子というイメージを持ちがちなので、可能であれば、家庭等の間に（母子・父子）と入れてもらえるのだったらお願いしたいなと思っておりますけれども、これも事務局に一任します。

それから、細かいことですが、39ページのまちづくりの基本目標5の生活しやすく住みよいまちの目指す姿1の後ろです。丸括弧で表現しているのですけれども、ほかのところは鍵括弧になっており、ここから丸括弧とかぎ括弧が混在していて、直したほうがいいと思いますので、指摘しておきます。

そして、

45ページの一番下の①のまちづくり活動担い手の育成のところの文章が十分ではない流れになっていると思うので、書き換えたほうがいいと思いますし、46ページの一番上の②の誰もがまちづくり活動に参加しやすい環境整備のところももう少し工夫したほうがいいと思います。もう一度読んでいただくと皆さんもそう思うのではないかなと思います。

それから、最初のほうに戻って申し訳ないのですけれども、第1章の子育てのことを書いてある26ページです。

(2) プロジェクトの推進による10年後の札幌市ということで、イメージ図もあるのですけれども、丸の四つ目に結婚・出産・子育ての不安を緩和する支援やとあります。もちろん、これは大事なことなので、そのままでもいいのですけれども、10年後の札幌市のイメージということではいうならば、もう少し子育てを楽しみながら生き生きと暮らしているというようなニュアンスがあってもいいなと個人的には思っています。採用していただくかどうかは事務局にお任せしますが、10年後のイメージとしてはそういう前向きな文言でもよいのではないかという思いです。

○平本会長 ひとり親家庭のところに「母子・父子」をつけたらどうか、そして、文章の表現を少し見直してはどうか、それから、最後のところですが、先ほどのご指摘もそうだったのですけれども、より前向きな文言のほうが望ましいのではないかということなので、ご検討をいただきたいと思います。

これで第2章の議論は終わりにしまして、第3章の行政運営の方向性についてのご意見等があればぜひいただきたいと思います。いかがでございましょうか。

○中田委員 細かいことかもしれませんが、重々趣旨は分かるので、意見ということでお聞きいただければと思います。

例えば、財政に関すること、あるいは、最初に選択と集中という言葉が入っていますよね。趣旨は分かります。こういうことをやるには、財政的な裏づけもそうですし、そのために選択と集中が必要だということだと思うのですが、市民が読んだとき、10年後、こうやっていけば私たちは豊かな生活ができ、札幌市は経済的にもっと発展していくのだろうなという期待を込めてずっと読んでいけます。でも、選択と集中という言葉を見てしまいますと、結局、できることとできないことがあると思ってしまうのかなと思いました。そのため、どういった表現がいいかは分かりませんが、例えば、優先順位を明確にしてという柔らかい言葉を使ったほうがいいのかなと思います。選択と集中というのは非常に便利な言葉だと思うのですけれども、よりインパクトが強いという印象があるので、表現を改めたほうがいいのではないのかと思いました。

○平本会長 これには好みや考え方もあると思うので、どちらがいいかは事務局にご一任いたしまして、中田委員からこういうご意見が出たということは議事録に残させていただきます。

ほかにはいかがでございましょうか。

○木村委員 私も第3章の今の選択と集中のところが気になっていました。私は、個人的には選択と集中をしたほうがいいと思います。この議論はとても面白かったですが、結局、どういう順番で何をやるのか、戦略ビジョンもいろいろな専門分野から平たく話があったなというのが正直な感想です。それはそれでいいですし、全部大事ですし、札幌市はこう考えていますということが整理されたのだと理解をしています。しかし、第3章でいきなり選択と集中が出てきて、平たくいろいろなことが大事だと整理しましたと言っているのに、やっぱり選択と集中をするのかということとびっくりすると思うのです。

ですから、書くなら書くでも最初に持ってきて、お金には限りがあり、できることとできないことがあるから選択と集中をします、については、こういうふうに話し合っ、こういう順番でやることにしました、私たちの戦略ビジョンはこうですみたいな話にするのだったら分かるのですけれども、平たく話してきて、最後に選択と集中と出されると、とてもびっくりします。

しかも、選択と集中の前が産業の育成・企業誘致でして、結局、経済の話だけがそこにあるのです。いろいろと話してきたけれども、結局、それを選択することにしたのですかというか、何か話し合っていないことが最後に出てきているように読めるので、順番を組み替えるか、話してきた内容と違うのではないかなと思いました。

○平本会長 戦略ビジョン、しかも、戦略編を議論するとき、大前提として、全部はやらず、何を切り捨てるかを定めることなので、その意味では、そういうことが暗黙の了解として入っている議論だと思うのです。ただ一方で、木村委員のおっしゃるように、最後にまたこれが出てくるのはずっこけるよねということで、市民の皆さんがこれをお読みになったらそういうご感想を持たれるかもしれないということですよ。

先ほど中田委員のご指摘とも関連すると思うのですけれども、見せ方の分かりやすさというのでしょうか、それから、そもそも、戦略ビジョンを10年単位でつくっていることの根本的な意味ですね。先ほど8%ぐらいの市民しか認識していないということも問題だというご指摘が福士委員からございましたけれども、そういったことも含め、これをつくって議論し、これが札幌市の最上位の戦略ビジョンになっているのだということの意味合いがきちっと伝わるような見せ方であることが重要だということをお二人のご指摘を伺いながら感じた次第です。

できる範囲で修正をお願いしようと思います。

○平本会長 ほかにいかがでございましょうか。

○山本（一）委員 先ほど誰に伝えたらいいのか、どうやって伝えたらいいのかということがありましたよね。せっかくこのような立派なもののできたのですけれども、やはり、

なかなか伝わっていないというのが現実だと思います。

プランとはいえ、少なくとも、中学生も読める文章になっていると思いますので、中学校の授業などで組み込んで自分たちが育っているまちがどんなところなのか、どういうビジョンを持って進んでいっているのか、自分たちはどのように関わっていくのかを学習の中で学ぶということが必要だと思いました。

○平本会長 教材に使うということはこれまでやってきたのですか。

○事務局（中本企画課長） やっております。教材用の中学生にも読めるようなバージョンも作成しております。ただ、アンケート調査の対象として16歳以上としていまして、子どもたちについては数字に反映されていません。いずれにせよ、しっかり浸透させるように頑張りたいと思います。

○平本会長 全体を通じてのコメントでも構いません。第3章に限定せず、気になっていることがあればご発言をいただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

○原田委員 冒頭のウォーカブルシティの成果指標についてです。

事務局のご回答は、スポーツ実施率の中にウォーキングの実施率があるというお答えがありましたよね。ウォーカブルシティは、国土交通省が推進している政策ですが、ウォーキングをやっている人ではなく、散歩したり、ぶらぶらと歩いたり、レジャーで買物をしたり、そういう人が多いのですね。ですから、歩行者の量を測るような指標のほうがいいのではないかなと思いました。多分、スポーツと思ってウォーキングをやっている人は本当に少ないと思うのです。

イギリスでは、1週間、どれだけアクティブでしたか、その長さを答えてくださいという設問を指標に使っているのです。あるいは、歩行の量を指標にしたほうがいいなと思いました。

多分、ウォーカブルシティはすごく新しい概念なので、どうやってそれを評価するかはこれからの課題だと思いますけれども、ご検討をいただければと思います。

○平本会長 ウォーカブルシティの成果指標についてのご指摘でした。例えば、イギリスの例などもあって、海外の事例などもうまく参考にしながら適切な指標を考えてくださいということでしたが、ぜひよろしく願いいたします。

ほかにはいかがでございましょう。

○岡本委員 全体に関わるというお話なので、お伝えしておかないといけないかなと思うのですが、戦略ビジョンができた後、事業計画等、個別の分野に入っていくと思います。改めて言うことではないと思うのですが、それぞれの事業で担当できることと、横につながっていて、実は、これをやると向こうにも効果が出るという相互的な関係性が強いものもきっとあると思います。あるいは、予算が限られているからこの範囲でしかできないということでしたが、それによる効果を何年先まで見ているのかがきっと重要で、この四、五年を乗り切れればいいという話なのか、10年、15年、30年、そこまで見据えるのか、公共として投資的な視点を持ってがらりと変えておくことでその後はよい影響となっ

て経済の効果にもつながっていく、人々の健康にもつながっていくというものもあると思うので、一概に予算がないから取りあえずしのいでと見えてしまう考え方はもう古いと思いますし、長期的視点での平準化という考え方も同時に並行して走っているわけで、今のタイミングでどこに効果を求めるのかを考えたとき、戦略ビジョンの中に書いてある趣旨をきちんと捉えつつ、小さい事業に必ず分けなければいけないわけではなく、相乗効果があるものに選択、集中してもらうことがとても重要だと思います。

○平本会長 まさにそのとおりでして、先ほど協働のところのご説明で市民との協働、行政と行政以外との協働も重要だけれども、市内部での協働が不十分だということがありましたけれども、それと関わる話ですね。

もう一つ、5年で見るとか、20年や30年ぐらいのスパンで見るとかでやるべきことは変わってくるでしょうということで、とても大事な指摘でした。市長の任期が4年なので、4年ごとにいろいろなことが動いていきます。でも、そうではなくて、市民は、生まれてから死ぬまでずっとここで暮らすわけですから、そういうスタンスで物をきちんと考えていくことの重要性を指摘していただいたと思います。

これは、行政側に対する強い要望であると同時に強い期待だと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

時間が大分迫ってまいりました。もしご発言がございましたらいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○平本会長 それでは、時間となりましたので、これで議事を終えたいと思います。本日のご意見についての最終調整は、今後、会長の私と梶井副会長にお任せいただきたいと思いますのですが、それでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○平本会長 ありがとうございます。

それでは、そのようにさせていただきます。

それでは、事務局にご発言をいただきたいと思います。

○事務局(浅村政策企画部長) 本日も活発なご議論をいただきまして、ありがとうございました。最初に謝罪をしたいのですが、オンライン参加をいただいている委員の方々にZoomの接続情報を間違ってお伝えをしておりました。遅れてご参加をいただくことになってしまったようで、大変申し訳ございませんでした。

本日は、最終回でしたが、非常に意義のあるご議論をいただいたと思います。

表現に関し、これまでいただいていた議論が伝わり切らないという懸念の指摘だったと思いますので、できるだけ取り入れていきたいです。

また、指標に関しましてもかなりの意見をいただきました。計画体系としましては、最

上位に戦略ビジョンがあって、この後、それを具体的な事業に落とし込んでいくアクションプランという、予算づけも含めた5年間の計画をこれからつくっていきます。

今後、各分野の個別の計画も戦略ビジョンに基づいて策定を順次していくことになりまして、そこでも具体的な施策や事業の成果を測るような成果指標もつくっていくということになりますので、全てを戦略ビジョンでの議論で明らかにするのではなく、これは10年ですけれども、3年や5年の単位でモニタリングすべき指標を段階的につくっていくことになります。ですから、全てのものでここで明らかになるわけではありませんが、今日いただいたご指摘も踏まえ、アクションプランや分野別の計画をつくっていくとき、これまでいただいている議論がきちんと反映できるよう、まちづくり政策局として、庁内横断的な計画策定の中でしっかりとした目を持ち、チェックしたいと考えております。

それから、ビジョン編については昨年10月に議決をいただきました。これは議会からも承認をいただいているということでコンクリートされているわけですが、それに基づく戦略編ということですが、ビジョン編はもう動かさないのですが、表現などに分かりにくいところについては、会長や副会長とも相談し、工夫をさせていただきたいと思っております。

また、横断的な施策の取組について、10年を超え、20年先や30年先をどう見るのかというご指摘もいただいています。そこで、来年度の組織編成となりますが、重要概念であるウェルネスに関し、保健所にウェルネス推進担当部を新設いたします。また、ユニバーサル推進室を政策企画部の中に置くということについて、今、議会に提案を出そうとも考えています。このように、ここでお話をいただいた成果は着実に組織内に浸透させていくということにしっかりと取り組んでいくということです。

改めまして、令和3年4月から、2年間、本日を含め、計20回の会議を開催させていただき、今後10年間のまちづくりについてのご議論をいただけてきました。目指すべき都市像をはじめとして、札幌市に必要な視点や考え方について、様々な見地からお示しをいただいたことに厚くお礼申し上げます。ビジョン編の冒頭でもうたっておりますが、昨年、市制施行100周年を迎えておりまして、札幌市の次なる100年の礎を築く10年となるよう、各セクションが連携し、持てる資源を有効活用しながら取り組んでまいりたいと考えています。

今後、答申を受領後には、成果指標の目標値を定めるなど、市の案をまとめ、パブリックコメントを行い、秋頃に正式な策定を行いたいと考えています。

同時並行でございますが、先ほど申し上げたように、戦略ビジョンを実現するための具体的な事業を定めます中期実施計画、いわゆるアクションプランの検討も進めまして、本年の冬頃に策定する予定です。

おかげさまで、様々な団体などに戦略ビジョンをお話する機会もいただいております。単なる普及啓発ではなく、市民や企業との協働を生み出していけるように意識し、そこでも様々な工夫をしてまいりたいと考えております。

○平本会長 どうもありがとうございました。

それでは、これで最後となりますが、2年間にわたる審議会の最終回ということで、最後に会長と副会長から一言ずつご挨拶を申し上げたいと思います。

まず、梶井副会長、よろしく願いいたします。

○梶井副会長 全体会議、それから、専門部会を通じ、皆様から毎回熱い議論をいただきまして、ありがとうございました。ここまでまとまったかと思うと感無量です。今日もさらに内容を詰めていただきまして、私としては市民の皆さんに自信を持って示せるものになったなと思っております。

第1章の10年後の札幌のロードマップを見て、10年後まで生きていたらこんな札幌市が見られるのかと、久しく忘れていたわくわく感を覚えました。このわくわく感こそ、今のこの時代にすごく欠落していたものではないかと思います。わくわく感がなければ若い人は結婚する気も起きないでしょうし、子どもを育てる気持ちにもなりません。先ほどから、「もっと前向きな文言はないか」というご意見が出ていましたけれども、委員の皆さんの思いはそれとして、このわくわく感をどうやって多くの市民と共有できるか、これが次なる私たちのミッションかなと思っています。

イラストも素朴で大変いいと思います。先ほど「このビジョンを誰にどうやって伝えるのか」という意見が山本（一）委員からありましたけれども、このイラストは小学生に見せていただきたいと思っています。そして、「10年後はこうなるのだ」と伝える機会を持っていただきたいのです。小さなことですが、イラストのところどころに意味不明なものもありますよね。そこがまたいいと思います。イラストを解き明かしながら、子どもたちに「10年後の札幌」を見せてほしい。

もう一つ、第3章についてですが、画期的だと思います。ここまで札幌市が言うかと思いました。「挑戦します、前例踏襲主義には陥りません」と宣言されている。市役所の方がここまでおっしゃるのは勇気が要ることだったろうと思います。チェンジナブルというメッセージですね。「変わりますよ、変えられますよ、市民ひとりひとりが一歩踏み出せば変わるのですよ」というこのメッセージをもっと伝えていただければと思います。

「わくわく感」と「チェンジナブル」の2点について申し上げましたが、10年後、20年後の希望のある変化を期待しております。

皆様、本当にありがとうございました。

○平本会長 どうもありがとうございます。

それでは、私からも一言申し上げます。

昨年度にビジョン編の答申を行いました。そこで都市像に「ひと・ゆき・みどりの織りなす」と入れました。雪という言葉を入れてしまったものですから、去シーズンは大変な雪が降りまして、秋元市長に大変申し訳ないことしたなと思って反省しておりました。

今、梶井副会長からすごくたくさんのご挨拶を下さったのですけれども、毎回、この審議会に出させていただき、本当に毎回勉強になりました。それぞれのご専門の立場からの

ご発言やご指摘は目からうろこでした。あるいは、自分の見識がすごく浅かったなど毎回感じる事ができまして、その限りでは勉強させていただいたなんて言うとは大変失礼な言い方になるのかもしれませんが、本当に勉強になる2年間でした。その結果として、今回、戦略編という立派な冊子ができる見通しがたちまして、皆様方にご審議をいただきましたことに本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。

今、梶井副会長もおっしゃいましたとおり、10年後です。多分、私も10年後はまだぎりぎり生きているのではないかと思いますし、本当に楽しみです。2030年の札幌市がどのようなになっているのか、我々のこの2年間の成果をかみしめつつ、健康に留意し、生きていきたいと思えます。

皆様方、この2年間、本当にどうもありがとうございました。

3. 閉 会

○平本会長 それでは、これにて本日の審議会は終了いたします。

以 上